



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

令和元年 11 月 15 日 第 9 巻 (第 2 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 巻頭言 ～この秋に思う～
2. 石巻現地の近況報告
3. 研修に参加して(基幹研修 I・日本保健医療福祉学会)
4. 石巻へ行く理由
5. 災害支援チームからのお知らせ
6. 災害支援ニュース発行のお知らせ
7. 編集後記



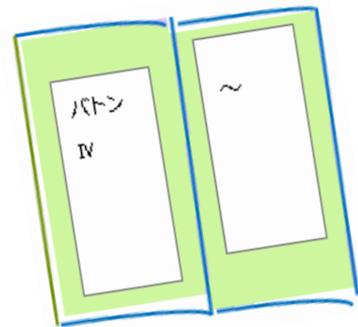
～石巻中瀬から望む川辺～

お 知 ら せ

「東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のボタン I ~ IV」

が発売されています！！

詳細は、協会ホームページ
及び 【1. 書籍販売】をご覧ください。



《 支援活動地域別 仮設住宅報告 》
(宮城県保健福祉部震災援護室 仮設入居状況より抜粋)

石巻市応急仮設住宅等現況報告

応急仮設住宅（プレハブ住宅）入居状況（令和元年10月1日現在）

入居戸数 2戸（2世帯）
入居人数 3人

応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅）入居状況（令和元年10月1日現在）

入居世帯数 3世帯（石巻市内2世帯4人、県内他市1世帯2人、）

その他県外等避難者 4世帯8人

1. 巻頭言

～ この秋に思う ～



石巻事務所

現地責任者 福井 康江

今年も全国各地での自然災害のニュースが続いている。「かつて経験したことのない災害」との言葉も数多く耳にすることとなり、被害の大きさを慮り、まず被害に遭われた皆様には心より哀悼の意とお見舞いを申し上げます。

さて、復興・再生期も終盤となり、この11月に復興庁より“「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針の見直し”が公表されました。被災者支援の課題として、復興の新たなステージに応じた切れ目のない支援を掲げ、見守り・心身のケアへの支援、コミュニティ形成支援、生きがいづくりのための「心の復興」、住宅・生活再建に関する相談支援が対策として明記されました。

当協会の石巻での支援も9年目となり、その間、例えば避難所、仮設住宅、復興住宅と生活の場が移るに応じてその方々の生活に寄り添い、複数の現地スタッフが繋ぎながら切れ目のない支援を心掛けてきました。と同時に、そこまで支援するのか、依存的になってしまうのではないか、もう従来のサービスの枠の中で支援しなければならないのではないか、との声を真摯に聞く機会が増えてきていることも否めません。

しかし、今年度になり、恒久住宅への入居が済んだものの、経済的にも、健康状態的にも自分の生活を維持することが厳しい方への新規依頼の支援が続いています。背景には、核となる家族が震災で亡くなっていること、震災後仕事を失い、その後の再就職が上手くいかず不安定な生活が続いていること、震災後再建のために借金をしたが体調を壊し生活を大幅に見直さなければならなくなったこと、震災を契機に離婚となりその後酒量が増え急激に体調を崩してしまったこと、新しい土地で初めて集合住宅に暮らすことになり近所づき合いの疲弊が続いていること、物理的に家が無くなったことで家族関係に大きな変化が生じたり、新しい生活環境の中で生きがいや楽しみを改めて見つけて行くことに支援が必要な方も多く、

まだまだ苦勞が続いています。「震災がなければ。」「嫌でも、大変でももうここで暮らすしかない。どこにも行く所はない。」との声を日々受け止めながら、「その人らしい生活」が送れるよう、「自分の居場所」となっていくよう、まだまだ私たちはやるべきことがあるのだと今また強く思い始めています。

自然災害が続いている中で、石巻市への他県からの視察が増えているとの事を伺いました。言うまでもなく、防災や減災、被災者への支援の在り様が、更に見直しや携わる人材の養成が早急に必要となってきたことから、当協会の石巻での支援の実績が貴重なものであることを改めて実感しています。そして使命として、この実績を今後に生かすものとする為にも、多くの皆様のお力添えをこれからもどうかよろしくお願いいたします。

2. 石巻現地の近況報告

石巻事務所

現地担当 清水 大地

今年度中に、市内全てのプレハブ仮設住宅団地の解体の着工がされる予定のようです。10月1日現在プレハブ仮設住宅に入居される世帯は2世帯となりました。昨年度まで当たり前のように訪問し、たくさんの方々からお話を聞かせていただいた仮設住宅団地も、どんどんと解体が進んでいます。

私たちが関わらせてもらった仮設住宅の入居者は、2019年8月をもって最後の一人が仮設住宅返還完了となりました。支援内容の中心となっていた転居支援が終了し、これからは、地域住民の一人として支援を行っていくこととなります。

近況としては、在宅で生活する方や復興住宅団地会と住民との仲介に入ることが増えてきています。その中で特に、「つながり」を支援するスキルの必要性を感じています。

これまでは、対象となる方「個人」を見て、課題解決の方法を考えていたように感じます。しかし、復興住宅での生活は、「近隣住民との関係」「習慣」「文化」「団地の中のルール」「行事等への参加」等、対象となる人が属しているグループや地域、そこから派生しているものを捉える視点が必要であると感じています。支援の目標をどこに置くか、これからを見据えてその方と関わるかどうか重要になってくるのではないのでしょうか。

— 団地内へ関わるという話から —

共生地域創造財団の皆さんと共催で行っている『夢と希望の会』ですが、8月は復興住宅の住民さんと交流する企画を行いました。会のメンバーと団地の住民さんとでポッチャの交流戦をするという内容でした。

団地の掲示板にチラシを掲載し参加者を募りましたが、予想を上回る参加人数でした。開始前に、「何の集まりなの。」「どこの団体が企画しているの。」と、会場を囲むように人だかりができました。「何だか分からないけど、皆で行って見ましょ。」という思いで参加して下さったのだと思います。この「企画された集まりに参加する」という、簡単なようで難しいことが定着している団地の住民さんたちのネットワークの凄さを感じることができました。性別や出身地も関係なく、皆で声をかけ合い交流戦を楽しんでくれました。中には、体が不自由な方もおられましたが、参加されていた他の住民さんが誰となく気を配り、声をかけて下さる場面もありました。お互いを理解し、集団をつくるという団地内の形をみることで来たよう感じています。

先に述べたように、私たちが関わる仮設住宅入居者の最後の一人が仮設住宅返還完了となりました。その最後の一人の入居手続きが完了すると、入れ違うように復興住宅を退去したいという方が現れ、退去手続き支援を行いました。その方に復興住宅での生活について伺うと、「いい思い出がでなかつた」と話され、生まれ育った土地に戻られました。「訪問を繰り返していれば、転居せずに済んだかもしれない。」「もしかしたら復興住宅に入居しなくても生活を再建できたのかもしれない。」と振り返り考えることはたくさんありました。住民個人と団地会の仲介に入ることが多くなり、その方を周囲にどのように知ってもらえるのか、また、集合住宅でのルールのある生活をどのように住民の方に理解してもらえるのか、支援の中で考えていく必要性があると感じています。

仮設住宅から地域での支援へ転換して行く中で、私たちができることが何なのかを考えながら、対象者の方々と関わっていきたいと思っています。



仮設向陽団地 解体風景



向陽団地は、137世帯の方々が入居されていた団地です。仮設住宅は全てなくなり平地へと戻っています。蛇田地区に団地は、2019年8月現在、蛇田西部第一団地の1団地のみとなっています。

新内海橋 工事風景



新内海橋は、来年度中に開通予定となっており、現在内海橋付近は交通規制がかかり、着々と工事が進んでいます。延長202メートルで上下各1車線。両側に幅3.5メートルの歩道を設けるようです。(2019/5/16 石巻日日新聞より抜粋)

石巻現地旧事務所 解体風景





今年度中に市内全ての仮設住宅団地の解体の着工が開始される予定です。中里 7 丁目公園内にあった旧事務所もプレハブ仮設住宅であり、他の団地同様に解体が行われました。あっという間に工事も進み、事務所はすっかり解体されています。

3. 研修に参加して(基幹研修 I・日本保健医療福祉学会)

石巻事務所

現地担当 清水 大地

今年度 8 月に 2 つの研修に参加させていただきました。公益財団法人日本医療社会福祉協会「医療ソーシャルワーカー基幹研修 I」と、一般社団法人日本保健医療福祉学会「第 29 回大会」です。

1 つ目の基幹研修は、勤続年数 3 年以内の保健医療分野の相談援助職に携わる方が対象と

なっていました。研修期間は 5 日間で、日本全国の病院に勤める相談職の方々 140 名と研修を共にしました。

研修のプログラムは 12 に分かれており、知識や倫理、価値を学んだり、演習やディスカッションを行いました。もちろん知識や技術を学ばせてもらえたことは私にとって、大変大きなことだったのですが、特に有意義に感じたのが、同じ勤続年数の方々との交流を持てたことです。ディスカッションや研修後の交流の中で「これで良いのかと、毎日考えながらやっている。」「毎日プレッシャーがすごい。」と言った内容の話が、色んな人から聞くことができました。中には、「毎日泣きながら業務を行っていた。」と言う人もいました。そして、「こういうことをしているのが楽しい。」「ああいうことをしてみたい。」と言うように、対人援助をしていく中での笑い話や熱い思いを聞くこともできました。研修初日は、専門知識や技術を学ぶ中で「こんなことも知らずに対象者に関わっていたのか。」と、自信を無くしてしまいそうにもなりました。しかし、こういった日々の苦労話や目標と掲げることが参加者の方たちと共有ができ、「こんな悩みをもっているもいいんだ。」「大変なこともあるけれど、みんな頑張っているんだ。」と、大きな励みになりました。

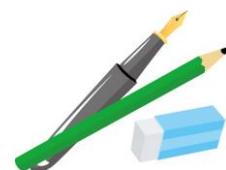
次に、日本保健医療福祉学会第 29 回大会は、東京都内にある聖路加国際大学を会場に、「地域包括ケアシステムの激流の中で個を守りぬく」をテーマに 2 日間行われました。基調講演とシンポジウム、分科会、事例部会と内容が大変充実した大会でした。

基調講演は『自分らしい』死とは何か？』を演題に上野千鶴子さんよりお話を聴きました。内容は、高齢者の最期の迎え方を「脱家族」をキーワードにお話をされていました。特に、『家にいたい』は『家族と一緒にいたい』と同じではない」という、上野千鶴子さんのお話が印象に残っています。これまで、対象者の方と関わる上で、“家族”の在り方を優先的に見てきたように思います。「どこに行っても家族がある」と学び、それが私の中でのキーワードにもなっていました。「家族とのつながり」「何かあれば家族へ連絡」「家族との関係を以前のように戻ってほしい」と考えてきました。

しかし、上野千鶴子さんのお話を聴き、私は、その人の目線に立つということができていただろうかと、振り返るきっかけになりました。私自身の感情を中心に考えてしまわないよう、柔軟なもの捉え方ができるよう、対象者の方と関わっていきたいとの思いをまた新たにすることができました。

また、事例部会では、「臨床を読み解く—エスノグラフィーからの示唆」を題目に、当協会石巻現地責任者の福井さんが事例を提供されました。事例を細やかに記し、それを読み上げ、対象者の方との関りを、エスノグラフィーの視点で解説し、照らし合わせるというものです。これまでの事例検討の方法とは大きく異なり、実践をエスノグラフィーの視点でカテゴリー化するという、大変興味深く面白いと感じる内容でした。自分の実践を振り返り、理論にあてはめ、客観的に自身を捉えるということを学べたように感じます。

この2つの研修に参加させて頂けたことは、私にとって大変大きな学びになりました。特に基幹研修という5日間の研修に休みを頂き参加させて頂けたことについては、当協会や石巻現地事務所の皆さんに、大変感謝しています。学んだことを十分に活かして行きたいと思っています。



4. 石巻へ行く理由

～ 災害支援とは

8年目を経て考えること ～

災害支援チーム
富永 千晶



台風19号という甚大な災害で、このような文章を書くことにとても悩みました。そして、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

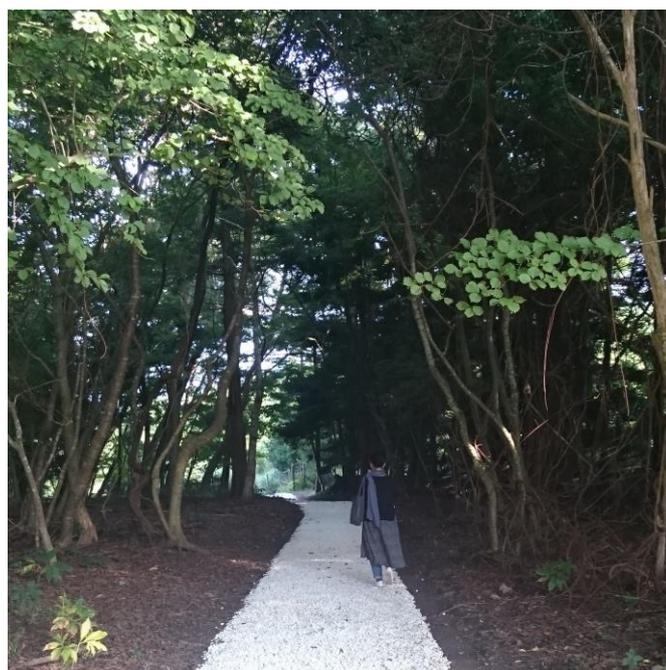
災害支援者として、石巻の地を知り8年がたちました。震災がなければ縁がなかった場所です。でも、いまは友人がいて、元上司や同僚がいる土地となりました。支援者として活動することは、今はしていません。ボランティアニーズがないこともあります。支援者としてではなく「この地に関わった者として、一時的ではなく細く長く関わってほしい。」が、根底にあったからです。

今回は、現地スタッフの福井さんと清水さんにお会いすることができました。新しい事務所にもお邪魔することができ、支援の様子を伺いながら「継続支援をしてきたからこそこの今がある」と感慨深い思いになりました。

町の様子も、道も、復興してどんどん変わっていきます。人の心や生活は、工事が進んだ道路や建物のように変わっていくもののでしょうか？ それぞれの思いを、様々な経験を一人ではなく家族で、又は友人と、そして町内や行政との繋がりで再形成されていく過程を石巻の福祉職の人々は大事に支援していると思います。

東京の下町で働いていると、地縁の繋がりや世代を超えての関わりを肌で感じるがあります。その時は、いつも石巻を思い出します。

ふるさとのような石巻、でも今回の 19 号台風での浸水被害は地元だけでは対処しきれていないという話を聞きます。私は今の職場の業務では、行くに行けないもどかしさを日々感じながら出来る支援を考えています。



鮎川エリア 金華山が見える浜へ続く白い道にて



5. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』の
販売を行っています！



発災から 2011 年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 12 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年 1 月から 2014 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この 5 月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014 年 4 月から 2016 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50

バトンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

バトンⅣ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

【2. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願ひいたします。

URL:<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【3.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。」

URL:<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4..feature=youtu.be>



6. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 **令和2年3月（暫定）**

（今年度は原則として 4 ヶ月に 1 回 の発行に変更）

7. 編集後記

清水 大地

台風 19 号で被害にあわれた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

10 月はスポーツに関する報道でにぎわっていたように感じます。日本シリーズ、ラグビー、バレーボールのワールドカップが開催され、ラグビーでは決勝トーナメント進出、男子バレーはベスト 4 入りと日本のスポーツ界が大きく躍動していました。その選手たちの頑張る姿に元気を貰った方も多いのではないのでしょうか。被災された皆さんを選手が応援してくれているようにも感じ、スポーツの与える感動や勇気の素晴らしさを改めて実感しています。

11 月に入り、石巻市にもすっかり秋到来。記事でも記載しましたが、石巻事務所で担当する仮設住宅の入居者の方は全て退去が完了し、現在は復興住宅を廻ることが殆どです。トンボがたくさん飛ぶ空の下を訪問先に向かい歩いたり、三日月を見ながら訪問先から帰ってきたり、美しい東北の秋を感じながらの毎日です。

食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋など、皆さんもそれぞれの秋を楽しんでください。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
令和元年 11 月 15 日 第 9 卷 (第 2 号)
作成 日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局